



需要急拡大の二次電池用精密部品や 産業機器用部品を製造

どんな仕事？

目に見えない部分で公共インフラに貢献しています

当社は1934(昭和9)年の創業以来、東芝グループの一員として90年にわたり成長を続け、着実に製造技術力を向上させてきました。1991(平成3)年には本社を福島市に新設。現在は、21世紀の産業の中核を担うと言われる大型二次電池向けの

精密金属部品並びに樹脂成形部品を主軸に、お客さまのニーズに合わせた数多くの製品を提供しています。二次電池は、電気自動車や太陽光発電、最新型の新幹線などに使われており、今後大きな需要が見込まれる分野です。今後もさらなる技術革新に向けて、当社の持つ技術力を生かした製品作りを展開していきます。



代表メッセージ

グループ内で設計から組立まで行えることが強みです



代表取締役社長
うすき しょうじ
薄 正司さん

私たちは、長年にわたり培った金属プレス・樹脂成形加工技術を生かし、お客さまのニーズを的確に捉え、あらゆる面においてスピード感をもって変革し続ける企業でありたいと考えています。成長著しい二次電池のジャンルで新しい未来を築きたい・創造していきたいという皆さん、私たちと共に挑戦していきましょう！

企業DATA



東芝プレジジョン株式会社

本社/〒960-2152 福島市土船字町田1-1
(新潟事業所、川崎事務所あり)
TEL:024-593-5550
FAX:024-593-5559
従業員数 104名(男81名・女23名)
※本社のみ
休暇日数 年間125日



事業内容

- エネルギーデバイス部品(蓄電池構造部品・周辺部品)の製造
- 産業部品(線量計部品および付帯設備・パワーモジュール用パッケージ・空圧部品)の製造
- 照明部品(照明口金部品・車載照明部品・各種LED照明用樹脂レンズ部品)の製造

【保有技術】

- プレス加工技術
- 樹脂成形加工技術
- 金型設計・製作技術
- 組立・自動化技術
- 評価・分析技術



就活豆知識

最後の押印で失敗して書き直しになるのを防ぐため、履歴書の印鑑は、最初に押しておくのが無難です。

先輩のメッセージ

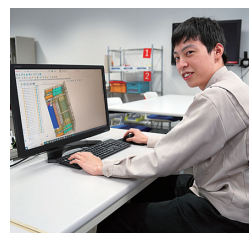
生産技術部
すずき ひではる
鈴木 秀春さん
(勤続3年目)

同じ高校出身の先輩も多いので心強いです！



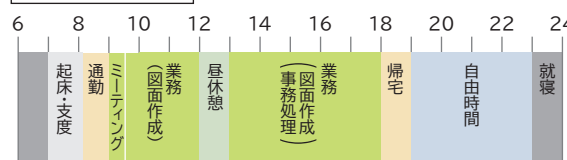
分らないことも聞きやすい、風通しのいい会社です

工業高校の機械科を卒業し、高い技術力に魅力を感じて入社しました。現在は金型の図面を描いたり、3Dモデルを作ったりする仕事をしています。設計は先輩社員に教えてもらいながら行っていて、製造担当者



にメンテナンスのしやすさや類似製品でどんな不具合があったかなど意見を聞き、より良いものを作る心がけています。実際に形になったときは達成感を得られますし、目に見えない部分で暮らしを支えているということがやりがいになっています。

1日のスケジュール



より難易度の高い資格にも挑戦して仕事に生かしたい

先生の紹介で当社を知り、実際に見学をした際の雰囲気よかったので入社を決めました。まだ1年目なので覚えることばかりですが、教科書を覚えることが中心だった高校での学びが、社会人になって実践することで理解が深まったと感じています。今は教わったことは書き留めておき、分からないことがあると見返して自分で解決できるよう心がけています。1日も早く仕事を覚えて、スキルアップできるようチャレンジしていきたいです。

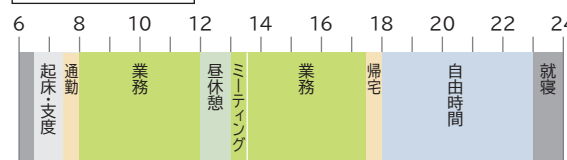


友人から「自由度の高い会社だね」と言われます

人事総務部
なかじま ななみ
中島 七海さん
(勤続1年目)



1日のスケジュール



働きやすい取り組み

「本物の5S活動」の導入

職場の課題をチームで検討し解決していくボトムアップ型の改善活動「本物の5S活動」を通し、安全・安心で快適に仕事ができる企業風土、職場環境の整備に積極的に取り組んでいます。

健康経営優良法人認証

健康イベントの開催や保健師の常駐など、社員の心と体の健康づくりに向けた施策を推進。「健康経営優良法人2023」の認定や、上位500社に与えられる「ブライツ500」も取得しています。

人材育成プログラムで成長を後押し

入社後1年間は「教育注力期間」としてさまざまな教育を受ける機会を設定。資格取得費用や受講料の補助、新潟事業所での実習教育など、知識と技術を兼ね備えた人材育成を目指しています。



若手社員も意見を出しやすい環境で、実際に改善につながった事例もあります。



食堂に自由に使用できる血圧計を設置したり、意識して歩幅を広くするような表示を行ったりすることで、健康への意識向上を図っています。

子育て世代インタビュー

子どもが生まれ、仕事への責任感もより強くなりました

昨年初めての子どもが誕生した直後に、2022(令和4)年に始まった産後パパ育休(出生時育児休業)を活用して、2週間の育休を2回取得しました。社内で初めての利用者となり不安もありましたが、「もっと長く取らなくていいの？」と言われるほど皆さん好意的で、安心して休むことができました。大変な時期に妻と2人で子育てに関わり、自分にもできることがたくさんあると実感したので、周りにも取得をすすめています。

品質管理部
はせべ ひでお
長谷部 英雄さん
(勤続3年目)

